



日本応用地質学会

参加費
無料

令和6年能登半島地震 災害調査団現地報告会

能登半島地震がなぜ起こり故郷がどう変化したのか
—持続可能な故郷の再生に向けて—

このたび、一般社団法人日本応用地質学会では、令和6年1月に発生した能登半島地震災害の調査現地報告会を開催致します。学会調査団は、北陸在住のみならず全国から会員が集結して組織され、被害の調査に取り組んでまいりました。災害からちょうど1年が経過した今、調査で得られた成果を地元住民の方々の今後の防災に役立てていただきたく、この現地報告会を企画致しました。震災1年後の新年早々ですが、興味のある方は是非参加ください。当日参加も歓迎します。

日時

1/11 (土)

13:00~16:40
(開場12:00)

主催

一般社団法人

日本応用地質学会

資料

希望者に販売します

講演資料 500円

調査団報告書 4000円

(定価5000円)

定員

200名

事前申し込みURL

<https://forms.gle/adcwzQxayJYGrVHy7>

または下記QRコードから

当日参加も歓迎します

※ただし、参加者多数の場合は入場をお断りすることがあります

講演

第1部. 能登半島地震を理解する

第2部. 能登の山々はなぜ大きく崩れたのか?

第3部. 大地が割れ・盛り上がり・動いた!

第4部. 能登地方以外でも大きな災害がおこったわけ

第5部. 地震やその後の災害から身を守るために

第6部. 質疑応答

(くわしくは裏面をご覧ください)

場所

金沢勤労者プラザ

〒920-0022

石川県金沢市北安江3-2-20

アクセス

金沢駅西口から北へ徒歩10分

(敷地内有料駐車場有190台)



お問い合わせ

(一社)日本応用地質学会事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-14 お茶の水桜井ビル7F
E-mail: office@jseg.or.jp / TEL: 03-3259-8232 / FAX: 03-3259-8233

令和6年能登半島地震災害調査団現地報告会
能登半島地震がなぜ起こり故郷がどう変化したのか
—持続可能な故郷の再生に向けて—

講演プログラム

開場・受付開始 12:00～ 司会進行 稲垣秀輝（環境地質）

開会挨拶 13:00～13:05 調査団長 大谷具幸（岐阜大学）

第1部. 能登半島地震を理解する（13:05-13:50）

1-1. 令和6年能登半島地震，その発生と地域社会・自然環境の被害，そして今後の復興にむけて：塚脇真二（金沢大学）

（休憩10分：13:50-14:00）

第2部. 能登の山々はなぜ大きく崩れたのか？（14:00-14:45）

2-1. ドローン・セスナ機からみた崩れた山々：佐藤昌人（防災科学技術研究所）

2-2. 能登半島の地形・地質が土砂災害を引き起こした：千田敬二（八州）

2-2. 能登半島に広がる古い火山の噴出物が被害を大きくした：太田岳洋（山口大学）

第3部. 大地が割れ・盛り上がり・動いた！（14:45-15:15）

3-1. 能登半島地震で地形がどう変わったのか？：小俣雅志（パスコ）

3-2. 生活に大きな影響を与えたインフラ被害の特徴：片山政弘（熊谷組）

（休憩10分：15:15-15:25）

第4部. 能登地方以外でも大きな災害がおこったわけ（15:25-15:55）

4-1. 石川県加賀地方や富山県沿岸部での液状化と金沢市内の斜面崩壊がおこったわけ：加藤靖郎（川崎地質）

4-2. 遠く離れた新潟・福井県で液状化・土砂災害が発生したわけ：佐藤壽則（日さく）

第5部. 地震やその後の災害から身を守るために（15:55-16:25）

5-1. 地震による被害を防ぐ、減らすために：野々村敦子（香川大学）

5-2. 応用地質から見た地震とその後の豪雨への対応のしかた：稲垣秀輝（環境地質）

第6部. 質疑応答（16:25-16:35）

閉会挨拶 16:35-16:40 北田奈緒子（GRI財団：日本応用地質学会副会長）